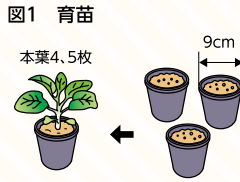


ルバーブ (タデ科ダイオウ属)

ルバーブは特有の香気と酸味のある葉柄を利用する永年性の野菜です。太くて多汁質の葉柄は、ジャム、パイなどに利用しますが、葉身にはシュウ酸が多く含まれるので食用にできません。和名は食用大黃といひ、漢方薬のダイオウと同属の植物で、原産地はロシア南東部からシベリア南部とされ、冷涼な気候を好みます。

【品種】世界的には数十品種ほど栽培されていますが、「ビクトリア」(藤田種子など)は草勢が強く収量の多い品種です。

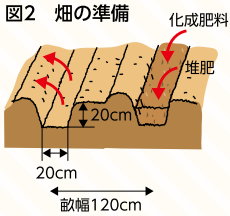
【育苗】幼苗期の除草作業などを考慮して育苗するとよく、ハウスを利用し、2、3月に3寸ポットに4、5粒の種をまきます。その後間引きをして1本立ちにし、5月ごろまでに本葉4、5枚の苗に仕上げます(図1)。



【畑の準備】 植え付け2週間前に1平方m当たり苦土石灰200gを全面にまいて、よく耕しておきます。植え付け溝は畝幅120cmとし、幅20cm、深さ20cmに掘り下げます。元肥は溝1m当たり堆肥

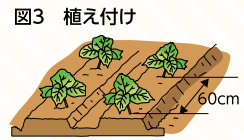
を2kg、化成肥料(NPK各成分10%)100g程度を施し、土を戻します(図2)。

【植え付け・追肥】 大型

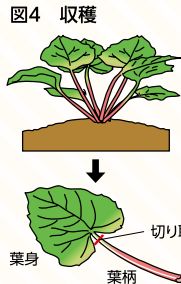


野菜のため、株間を60cm程度に取り、苗を植え付けます(図3)。

【3】 植え付けの年は、夏の初めと終わりに、溝を切って畝1m当たり化成肥料50gを与えます。翌年からは、冬(萌芽(ほうが)前)に畝1m当たり堆肥1kgと化成肥料100gを施用し、その後は初年度と同様に追肥をします。



【収穫】 初年度は収穫しないで、2年目から収穫を始めます。収穫法は30〜50cmに伸びた葉柄を基部より手でかき取り、葉身は切り捨てます(図4)。一度に採葉し過ぎないように、次回からは1、2週間後に収穫します。収穫期は5、6月で、収穫期間は2カ月程度にとどめておきます。



【その他の管理】 越冬した株が早春に萌芽し、その後、花茎の伸長(とう立ち)が始まりますが、開花・結実するとその後の生育が悪いので、花茎は早めに手で除去します。敷きわらは、泥はねを防ぎ、盛夏の干ばつ対策になります。なお、5、6年たつと草勢が衰えてくるので、植え替えをします。萌芽前の冬に掘り上げ、切り離す株に芽が付くように縦に切断し、株分けをします。



栽培計画

	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
露地栽培			●						●			
1年め												
2年め					●							
3年め					●							

● 種まき ○ 植え付け ● 収穫

JAグリーン津店が栽培のポイントを教えます!



JAグリーン津店
グリーンアドバイザー認定
城博一

ルバーブは、初夏に旬を迎え、茎を可食部分とするハーブ・野菜です。特にビタミンCが豊富ですが、カリウム、葉酸、食物繊維なども含まれています。

収穫は2年目からなので、家庭菜園では畑の隅などで栽培するのが最適です。

寒さには強いですが、暑さや極端な乾燥に弱いので、敷きわらや黒マルチをして温度上昇と乾燥を防ぎましょう。丈夫で、病害虫による被害は少なく、育てやすいです。

《収穫》

2年目以降は、茎が30cmほどに伸びたタイミングで株元からナイフで刈り取っていきます。茎をある程度土に埋めて柔らかくしたものが発色や味がよくなります。芽を出す前に10cmほど盛り土をし、地表から20cmほどに成長したら、収穫すると良いでしょう。

《株分け》

株分けは、3〜5月が適期です。4年以上育てた株を掘り上げ、根元の芽が1つ以上付くように根を手やナイフで切り分けていきます。

※種子購入の際は取り寄せとなるため、JAグリーン津店までお問い合わせください。